

# 経済透視図

99

## 生成AIなどの最新動向

チャットGPTやスリーニング技術を組み合わせ、**ティール・ディフュージョン**のような生成人工知能(AI)が注目されている。代表的なLLMはオープンAIのGPT-4、GoogleのGemini、MicrosoftのCopilot、AmazonのClaude、MetaのLlamaなどがある。現在、LLMの活用は、業務効率化や顧客対応の自動化など、幅広い分野で進んでいる。

チャットGPTは米オープンAIが開発したAIチャットボットで、これまでのAIと比較して人間として自然に見えるコミュニケーションが可能になっている。現在は、LLMを開発することのみにフォーカスした企業も登場するなど、LLMの開発は重要なテーマになっている。

ついでに、自然なAIことも多い点から、改訂している。自然なAIことも多い点から、改訂している。自然なAIことも多い点から、改訂している。

チャットボットを利用していること、知りたいことを何でも知ること、ユーティリティAIが開発されている。ユーティリティAIが開発されている。ユーティリティAIが開発されている。

## 市場拡大で活用規制も



SMBCC日興証券  
プライベート・  
キャピタル・  
ソリューション室長  
**窪田 正吾**

ある画像に著作権が存する場合は侵害リスクが発生するため慎重な運用が必要である。生成AI業界ではオープンAIおよび株主のマイクロソフトやGoogleが優位なポジションの構築に成功しているが、これに対抗する形で5日に米IBMおよびメタが50以上の企業(ソニーグループ、米オラクルなど)、

AIが我々の仕事や生活に与える影響が増加しているため、AIを正しく活用するための規制を設ける試みが増加している。8日には、トリログにおいてAI(ドローン)へのAI(隔週水曜日に掲載)

無断転載・複写禁止